

寄

稿



ロンドンオリンピック
ボクシングミドル級
金メダリスト

村田 諒 太

沖縄青少年交流の家、創立40周年、誠におめでとうございます。

私自身、学生時代の合宿や、全日本チームでの合宿で大変お世話になりました。施設の中にはボクシング場も設置されており、合宿場所としても最適な環境です。大自然を駆け抜けるロードワークも、都会では味わえない気持ちよさがあり、アップダウンの激しい坂道や、透き通った海辺にある砂浜などで足腰を鍛えることができ、同じ内容を都会で行っていたら、とても耐えられないようなメニューも、自然の素晴らしさが後押ししてくれて、最高の練習ができました。

また、2011年の合宿の際には、村民駅伝大会にも参加させていただき、地元の方々の温かさを感じることができました。私は最終区の区間記録を塗り替えることと、3位から1位に上げるために必死で坂を登りましたが、両方とも実現できませんでしたので、是非、再チャレンジしたいと思っております。

オフの日にはレンタルサイクルで渡嘉敷島を一周するなどしてリフレッシュすることが出来、観光場所としての素晴らしさも改めて感じました。

オリンピックでのメダル獲得も、ここで培った持久力や、皆様からいただいた温かいサポートのお陰と心より感謝しております。

今後ともこの施設を活用させていただき、私だけではなく、一人でも多くの人間が、渡嘉敷島の素晴らしさに触れる機会を作っていければと思っております。

最後になりましたが、50周年、100周年という未来に向けて、益々のご発展を心より祈念しております。

平成24年10月20日



ロンドンオリンピック
ボクシングバンダム級
銅メダリスト

清水 聡

国立沖縄青少年交流の家創立40周年、誠におめでとうございます。

私は沖縄というと、まず、渡嘉敷島を思い浮かべます。泊港から高速船に乗るときは、逃げ場のない強制収容所に連行されるような想いで乗船していました。それは、阿波連ビーチでの砂浜ダッシュ、アップダウンの厳しい島1周ロード、青少年の家でのジムワーク等どれも地の利を活かした過酷なトレーニングが強行されていたからです。ナショナルチーム強化合宿虎の門ならぬ、ハブの門となっていました。しかし、合宿を乗り越えられたのも、冬に暖かい気候、きれいな空気、豊かな自然、温かい島民の皆様、そして、なにより周りに何も無い環境がボクシングの練習に打ち込ませてくれたと思っています。

また、一昨年の渡嘉敷村駅伝大会では、飛び入り参加させていただき、村の子供達と同じ気持ちで走ったのが、思い出深く残っています。

そんな最高の環境で練習してきたことがロンドンオリンピックの銅メダルにつながったと感謝しております。

これからは、いろんな形で国立沖縄青少年交流の家を利用するとともに、出来る範囲でPRもしたいと思っています。

最後に、国立沖縄青少年交流の家の末永い存続と益々の御発展、また、渡嘉敷島村民皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの挨拶とさせていただきます。

平成24年10月20日



寄

稿